

第5次とよおか教育プラン

(豊岡市教育振興基本計画)

2025年度 実践計画

豊岡で育む「在りたい自分」と「在りたい未来」を創造する力

～非認知能力（やり抜く力・自制心・協働性）を子どもたちに～



2025年3月

豊岡市教育委員会

目 次

■2025年度実践計画 施策・取組一覧	・ ・ ・ 1
■表記・記号の説明	・ ・ ・ 4
■基本方針 1 予測困難な時代を生き抜く力を育む教育の推進	
基本的方向 1 多様性の尊重と包摂性のある教育の推進	・ ・ ・ 5
基本的方向 2 「確かな学力」の育成	・ ・ ・ 10
基本的方向 3 「豊かな心」の育成	・ ・ ・ 14
基本的方向 4 「健やかな体」の育成	・ ・ ・ 18
基本的方向 5 「生きる力の基礎」の育成	・ ・ ・ 21
■基本方針 2 自分らしく安心して過ごせる学校園の創造と家庭・地域等との共創	
基本的方向 1 学校園・家庭・地域等の連携・協働の推進	・ ・ ・ 24
基本的方向 2 安全・安心な教育の推進と教育環境の整備	・ ・ ・ 29
基本的方向 3 教職員の資質・能力の向上	・ ・ ・ 33
基本的方向 4 学校園の組織力の強化	・ ・ ・ 36
■資 料	・ ・ ・ 38
◇ 豊岡市小中一貫教育「豊岡こうのとりのプラン」概要	資料 1
◇ 豊岡市不登校対策アクションプラン	資料 2
◇ 新体力テスト結果(2024年)	資料 3
◇ くらしのアンケート結果(2024年)	資料 4
◇ 児童生徒数の推移	資料 5

第5次とよおか教育プラン 2025年度実践計画 施策・取組一覧

● …2025年度検証を実施する重点項目

基本方針1 予測困難な時代を生き抜く力を育む教育の推進		担当課
基本的方向1 多様性の尊重と包摂性のある教育の推進		
施策① つながりのある特別支援教育		
1	1 関係機関との連携による支援体制の充実	学校教育課
2	2 豊岡市こども支援センターの機能の充実	こども支援課
3	● 3 スーパーバイザー支援事業の実施	こども支援課
4	● 4 学びの継続による、すべての教職員の専門性の向上	学校教育課
5	5 すくすく訪問による支援の充実	幼児育成課 こども未来課 こども支援課
施策② いじめ・不登校等への対応		
6	1 いじめの未然防止、早期発見・早期対応における組織的対応の充実	学校教育課
7	● 2 一人一人の多様なニーズに応じた不登校対策の推進	学校教育課
8	3 子どもの心を理解する強化月間、アセス等を活用した生徒指導の充実	学校教育課
施策③ 多様性・ジェンダー視点に立った教育の推進		
9	● 1 多様性・ジェンダーに関する教育（オリジナル絵本の活用等）	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課
10	2 外国人市民との交流等による多文化共生教育	
11	3 日本語指導を必要とする児童生徒等への日本語教育の充実ととよおかこども多文化共生サポーターの拡充	学校教育課
基本的方向2 「確かな学力」の育成		
施策① 新しい時代に求められる資質・能力の育成		
12	● 1 非認知能力向上のための取組の推進	学校教育課
13	2 「主体的・対話的で深い学び」及び「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた授業改善（全国学力学習状況調査の分析と対応）	学校教育課
14	3 きめ細やかな指導の充実を図るための指導補助教員等の配置	学校教育課
施策② 身近な課題の解決・活用に向けた探究的な学び		
15	1 STEAMの視点を入れた探究的な学びの推進	学校教育課
施策③ 小中一貫教育を核とした一層の連携教育		
16	● 1 ローカル＆グローバル学習の時間の充実	学校教育課
17	2 系統性と一貫性のある寄り添い方で実践する学習指導と生活指導の充実	学校教育課
施策④ 幼児期から児童期への円滑な接続		
18	● 1 架け橋期のカリキュラムを活用した園小接続の実践	幼児育成課 学校教育課
基本的方向3 「豊かな心」の育成		
施策① 生命の尊厳を基盤とした人権教育		
19	1 今日的な人権課題に対応した人権教育の充実	学校教育課
20	2 家庭・地域・関係機関との連携した発達段階に応じた人権教育の推進	学校教育課
施策② 「対話」により考えを深める道徳教育		
21	1 体験的・実践的な活動を通じた道徳性の育成	学校教育課
施策③ 体系的・系統的なキャリア教育		
22	1 多様な体験活動の実施によるキャリア形成への支援	学校教育課
施策④ 子どもたちの発達段階に応じた体験を重視した活動		
23	1 児童会・生徒会活動、リーダー研修会等の充実	学校教育課
24	2 福祉体験活動やボランティア活動など社会体験の機会の充実	学校教育課
25	3 一流の文化芸術に触れる機会や伝統文化等を鑑賞・体験する機会の充実	文化・スポーツ振興課
施策⑤ 読書活動の充実		
26	● 1 読書の習慣化と質の向上をめざした読書活動の推進	学校教育課 教育総務課
27	2 図書や調べ学習の手がかりとなる情報の提供	教育総務課

基本的方向4「健やかな体」の育成		
	施策① 望ましい生活習慣の形成を図る健康教育・食育	
28	● 1 規則正しい生活習慣(食事、運動、睡眠)の確立	学校教育課
29	2 教育活動全体を通しての食に関する指導の充実	学校教育課
30	3 地産地消の推進と安全・安心な学校給食の提供	教育総務課
	施策② 体力・運動能力の向上	
31	● 1 豊岡市版小学校体育準備運動の共通実践と運動習慣の確立をめざした体育授業の充実	学校教育課
32	2 各種スポーツ教室やスポーツイベントの実施によるスポーツと接する機会の充実	文化・スポーツ振興課
基本的方向5「生きる力の基礎」の育成		
	施策① 健康な体をつくる力の育成	
33	● 1 幼児期における運動遊びの充実	幼児育成課
34	2 基本的生活習慣の定着とその推進	幼児育成課
	施策② 人と関わる力の育成	
35	● 1 遊びを通じた人と関わる経験の積み重ね	幼児育成課
36	2 英語遊び保育の充実	幼児育成課
	施策③ 思いを伝える力の育成	
37	1 伝える力と聞く力の育成	幼児育成課
	施策④ 自然や身近な環境に関わる力の育成	
38	● 1 自然や身近な環境に関わる経験の積み重ね	幼児育成課
	施策⑤ 感性豊かに表現する力の育成	
39	1 表現する力の育成	幼児育成課

基本方針2 自分らしく安心して過ごせる学校園の創造と家庭・地域等との共創

基本的方向1 学校園・家庭・地域等の連携・協働の推進

施策① 地域全体で子どもを育てる環境の充実		
40	1 子どもが参画する事業の推進(地域コミュニティ組織)	地域づくり課
41	2 子どもを支える各種ボランティア活動の充実	学校教育課 教育総務課
42	3 仕事と子育ての両立支援	幼児育成課 こども未来課
43	4 青少年健全育成活動の支援・推進	教育総務課
44	5 中学校部活動の地域展開等の推進	学校教育課 文化・スポーツ 振興課
45	6 豊岡市こどもセンターを中心とした関係機関での連携	こども未来課 こども支援課
施策② 地域コミュニティ組織と連携した学びの推進		
46	● 1 コミュニティ・スクールを核とした地域学校協働活動の充実	学校教育課
47	2 地域で大人が子どもに教える事業推進(地域コミュニティ組織)	地域づくり課
48	3 学校と地域コミュニティ組織の連携事業実施	学校教育課 地域づくり課
施策③ 家庭の教育力向上のための支援		
49	1 家庭での基本的生活習慣と学習習慣の確立	学校教育課
50	2 子育てに関する相談の充実	こども未来課 こども支援課
51	3 PTAとの協働と活動支援	教育総務課
52	4 ブックスタートの推進	教育総務課

基本的方向2 安全・安心な教育の推進と教育環境の整備

施策① 施設の計画的な改修とICT環境整備等教育環境の整備・充実		
53	1 学校園の長寿命化及び教育環境向上に向けた計画的な改修	教育施設課
54	● 2 ICT環境の整備	教育施設課
施策② 通学(園)手段の確保		
55	1 安全で安心できる通学環境の整備	学校教育課
56	2 路線バスがない地域でのスクールバス運行	学校教育課
施策③ 安全教育・防災教育の推進		
57	1 過去の災害を踏まえた防災・減災授業の実施	学校教育課
施策④ 学校園の再編		
58	● 1 「豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画」に基づく学校再編の推進	教育施設課
59	2 「豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画」の推進	教育施設課
施策⑤ 就学・修学支援		
60	1 就学援助費の支給	学校教育課
61	2 特別支援教育就学奨励費の支給	学校教育課
62	3 豊岡市奨学金、豊岡市交通遺児奨学金の運営	教育総務課

基本的方向3 教職員の資質・能力の向上

施策① 教職員の資質と実践的指導力の向上		
63	● 1 教員の指導力の向上を図る校内研修等の充実	学校教育課
64	2 年次研修、担当者研修、その他各種研修の充実	学校教育課
65	3 就学前の教育・保育計画「第2次スタンダードカリキュラム」及び「手引き」を活用した就学前教育の充実	幼児育成課
施策② 園小接続の推進に向けた教職員研修		
66	1 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた園と小学校職員の相互理解	幼児育成課
施策③ 多様性に配慮した教育・保育の推進		
67	1 多様性・ジェンダーに関する研修(オリジナル絵本の活用方法等を含む)	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課
68	2 外国にルーツを持つ子どもの支援のための研修	

基本的方向4 学校園の組織力の強化

施策① 学校園運営の効率化・組織化		
69	1 ICTの活用等、教員等の業務負担軽減に係る取組の推進	学校教育課
70	2 管理職、ミドルリーダーに係る各種研修	学校教育課
施策② 働きがいのある学校づくり		
71	● 1 学校園における働き方改革の推進	学校教育課
施策③ 教職員の健康管理		
72	1 年次休暇の取得促進、各種休暇制度の周知等、ワーク・ライフ・バランスの推進	学校教育課

【表記・記号の説明】

1 指標項目について

(1) 「■」印の指標項目

全国学力・学習状況調査（毎年4月20日頃実施・7月下旬結果公表）の結果の数値を使用。従って、実施年度の数値は前年度の取組が反映すると捉えられるが、実施年度の結果を目標値に対応させて評価することとする。

(2) 「□」印の指標項目

全国学力・学習状況調査以外の全国調査や各担当課による独自調査、取組による結果の数値を使用する。

2 指標数値について

(1) 2024現状値

① 現状値の年度考え方

原則は2024年度の実績値を表記するが、取組によっては前年度の実績値を表記する。この場合においては、当該年度を「 」で表記する。

② 新規項目

基本理念の実現に向け、2025年度から新たに指標を設定したものについては、指標名の末尾に「**新**」印を表記する。

(2) 2025目標値

2025年度に到達すべき目標値を設定する。

※■印の指標（全国学力・学習状況調査結果を使用）について、原則、目標値を「全国平均＋5ポイント」に設定している。なお、現状値が既に「全国平均＋5ポイント」を上回っている指標については、目標値を現状値以上とする。

3 施策・取組における備考欄について

(1) 2025年度検証を実施する取組

取組の中で2025年度に検証を実施するものについて、「検証」欄に「●」印を表記する。

4 その他

取組の内容や指標において、「小学校」には「義務教育学校前期課程」を、「中学校」には「義務教育学校後期課程」を含む。

また、小学校または中学校の学年には、義務教育学校における該当する学年を含む。（例：「小学校6年生と中学校1年生」には、義務教育学校6年生、7年生を含む）

基本方針 1 予測困難な時代を生き抜く力を育む教育の推進

これからの社会において求められるのは、一人一人の子どもたちが現在と未来に向けて自己の人生を拓き、生き抜いていく力である。

一人一人の子どもを大切にした教育の実現に向けて、それぞれの多様性を認め合い、すべての子どもたちが高め合うという「多様性の尊重と包摂性のある教育」を推進するとともに、想定外の事象と向き合い対応する力や不透明な未来を切り拓く力の基となる「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」、就学前における「生きる力の基礎」の育成が重要となる。

このため、以下の基本的方向に沿って、教育施策の充実を図る。

基本的方向 1 多様性の尊重と包摂性のある教育の推進

すべての子どもたちが自分らしく学ぶためには、発達特性や障害の有無、固定的な性別役割分担意識、外国にルーツを持つ子どもへの対応、言語的背景、貧困や家庭環境等、様々な事情・背景による多様な教育的ニーズに対して、一人一人の課題に応じた適切な対応が必要である。加えて、無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）等の払拭が不可欠であり、それは学校のみならず社会全体で重視していくべきことである。

そのためにも学校教育において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な取組が重要となる。

その実現に向けて、①つながりのある特別支援教育、②いじめ・不登校等への対応、③多様性・ジェンダー視点に立った教育の推進に取り組む。

〔指標〕

指標名	2024現状値	2025目標値
■学校に行くのが楽しいと思う児童生徒の割合	小 88.5% 中 85.9%	小 89.8% 中 88.8%
□いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合	小 96.7% 中 96.6%	小 100% 中 100%
□不登校児童生徒の割合	小[2023] 1.39% 【2023全国 2.16%】 中[2023] 6.23% 【2023全国 7.04%】	小 2024現状値以下 中 2024現状値以下
□オリジナル絵本「みらいへのつばさをひろげて」を教育・保育に活用した学校園の割合 ^新	—	園 100% 小 100% 中 100%

施策① つながりのある特別支援教育

取組	取組名	内容	検証
1	関係機関との連携による支援体制の充実	特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒が、就学前から在学中、卒業後も切れ目なく一貫した支援を受けられるよう、保健・福祉・医療等の関係機関や外部専門家等と連携して、学校園の組織的な対応力を強化する。	
2	豊岡市こども支援センター ¹ の機能の充実	特別な支援が必要な子どもを適切に支援していくために、豊岡市こども支援センターにおいて、臨床心理士等による個別相談、発達に関する検査（知能検査、心理検査等）を実施し、保護者や学校・園に個々の特性や課題に応じた関わり方や支援の手立てを助言する。 また、特別支援教育に関する専門性を高めたり啓発を行ったりするために研修会等を行う。	
3	スーパーバイザー ² 支援事業の実施	スーパーバイザーの指導により、指定中学校区等において、一人一人の発達課題を踏まえた、授業における指導・支援の工夫の意図と手立てを明確にした授業研究を通して、すべての子どもがわかりやすい授業づくりと寄り添い方の質を高める研究を行う。	●
4	学びの継続による、すべての教職員の専門性の向上	特別な支援が必要な子どもの教育的ニーズ等に応じた指導・支援を行うため、子どもの実態把握、個別の指導計画・個別の教育支援計画等の作成・活用、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた取組等についての校園内研修の実施、豊岡市教育委員会主催の研修会等への積極的な参加により、教職員の専門性の向上を図る。	●

¹ 豊岡市こども支援センター

不登校・発達障害等、特別な支援を必要とする子どもたちへの組織的な支援を行うために、豊岡市が設置する教育機関

² スーパーバイザー

事業の指導を行う専門家

5	すくすく訪問による支援の充実	個別の支援が必要な園児、気になる園児に対して理解を深め、早期から適切に関わることができるように必要に応じて心理士、保健師、指導主事が園を訪問する。 また、集団の中でどう関わり、クラス運営を進めていくのかなどについても、保育者へ指導助言を行うとともに、保育者の質の向上を目指す。	
---	----------------	--	--



スーパーバイザー支援事業



特別支援教育支援員研修

施策② いじめ・不登校への対応

取組	取組名	内容	検証
1	いじめの未然防止、早期発見・早期対応における組織的対応の充実	全小中学校において「いじめアンケート」を毎月実施し、いじめに対する意識の高揚を図るとともに、いじめの早期発見に役立てる。 市においては「豊岡市いじめ防止基本方針」に基づき、関係機関等と連携を密に図りながら、学校と一体となって取り組む。	
2	一人一人の多様なニーズに応じた不登校対策の推進	豊岡市不登校対策アクションプランに基づき、未然防止・早期発見・早期対応に取り組む。また、保護者・支援関係機関・地域と密に連携を図りながら多様な学びの場を提供するなど、一人一人のニーズに応じた不登校対策を推進し、子どもの社会的自立を目指す。 さらに、引継ぎ連携システムを強化し、9年間を通して、継続的・組織的に関わる体制をつくるとともに、各中学校区の実態に応じた取組を推進する。 ※巻末の資料2「不登校対策アクションプラン」を参照	●

3	子どもの心を理解する強化月間、アセス ³ 等を活用した生徒指導の充実	全小中学校で年3回（5月・9月・2月）、「子どもの心を理解する強化月間」を設定して、アンケート調査、個別面談等を実施したり、「アセス」を小学校3年生以上のすべての子どもたちに年2回以上実施したりすることで、子どもの状況について把握するとともに、教職員間で共通理解を図り、組織的にいじめや不登校、問題行動等の早期発見・早期対応、きめ細かな対応に努める。	
---	---	---	--



ふれあいルーム（こども支援センター）

施策③ 多様性・ジェンダー視点に立った教育の推進

取組	取組名	内容	検証
1	多様性・ジェンダーに関する教育（オリジナル絵本の活用等）	豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略の施策の柱の一つに「子どもたちがジェンダーギャップ解消の必要性を自分のことばで語っている」ことを掲げており、ジェンダー視点を取り入れた保育・教育を行うこと等を挙げている。学校園で教職員が、ジェンダーなど多様性をテーマにしたオリジナル絵本「みらいへの つばさを ひろげて」を活用し、読み聞かせや対話を通して、子どもたちに自己理解・他者理解を促す。 また、「こころ」と「からだ」を大切にする発達段階に応じた包括的性教育（人間関係、価値観、人権、セクシュアリティ、ジェンダー、人間のからだと発達、性と生殖に関する健康などの理解）に関する意識啓発を行い、人権・多様性を尊重する子どもたちを育てる。	●

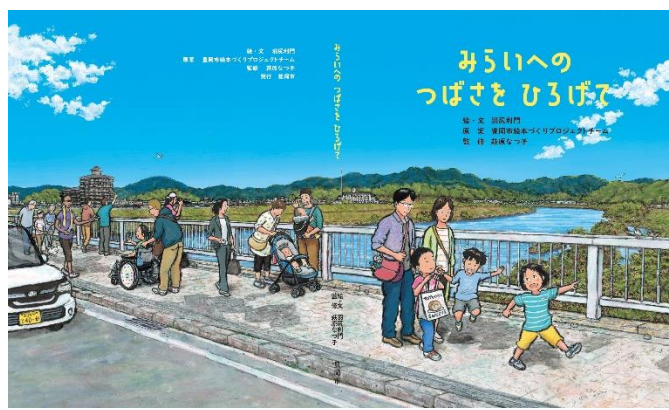
³ アセス

学校環境適応感尺度（ASSESS: Adaptation Scale for School Environments on Six Spheres）。学校生活に関するアンケートにより、児童・生徒の学校生活への適応感を総合的に測定する。

2	外国人市民との交流等による多文化共生教育	希望する小中学校に講師が出向き、異文化への気づきをテーマとしたコミュニケーションゲームを実施するとともに、外国人市民も参加し、子どもたちと一緒にワークショップ等で交流することにより、多文化共生への理解を促す。	
3	日本語指導を必要とする児童生徒等への日本語教育の充実ととよおかこども多文化共生サポーターの拡充	小中学校の授業で日本語教育が行える体制を整えるとともに、子ども一人一人の状況により、とよおかこども多文化共生サポーターの期間延長、回数増加等の拡充を行う。 また、就学前の子どもについても日本語指導や母語支援を行えるようにする。	



ジェンダーに関する保育・教育研修



絵本「みらいへのつばさをひろげて」

基本的方向 2 「確かな学力」の育成

子どもたちが、自分の良さを自覚するとともに、あらゆる他者を尊重し、多様な人々と協働しながら様々な課題を解決するためには、確かな学力が必要である。

その実現に向けて、①新しい時代に求められる資質・能力の育成、②身近な課題の解決・活用に向けた探究的な学び、③小中一貫教育を核とした一層の連携教育、④幼児期から児童期への円滑な接続に取り組む。

〔指 標〕

指標名	2024現状値	2025目標値
■「全国学力・学習状況調査」における正答率40%以下の児童生徒の割合	小国 12.5% 小算 18.2% 中国 30.2% 中数 32.5%	小国 6.9%以下 小算 15.1%以下 中国 21.5%以下 中数 30.4%以下
■国語、算数、数学の勉強が好きだと思っている児童生徒の割合	小国 63.4% 小算 61.7% 中国 57.3% 中数 55.0%	小国 67.0% 小算 66.0% 中国 69.3% 中数 62.2%
■話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う児童生徒の割合	小 89.6% 中 89.7%	小 91.3% 中 91.1%
■授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う児童生徒の割合 ^新	小 88.0% 中 80.0%	小 88.7% 中 84.0%
■総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる児童生徒の割合 ^新	小 84.8% 中 86.5%	小 86.3% 中 87.2%
■地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある児童生徒の割合	小 87.0% 中 85.4%	小 88.5% 中 2024 現状値以上

施策① 新しい時代に求められる資質・能力の育成

取組	取組名	内容	検証
1	非認知能力 ⁴ 向上のための取組の推進	集団の中で高めていきたい非認知能力を「やり抜く力」、「自制心」、「協働性」に焦点化し、全ての授業や学校教育において、肯定的な考えや関わりの中でその向上に取り組む。 また、演劇ワークショップを、全小学校1・2年生で実施し、担任等とファシリテーターの連携を図る。 加えて、市内学校園教職員を対象にした研修会を行い、全ての保育・教育活動で非認知能力向上の取組の推進を図る。	●

⁴ 非認知能力

IQや学力テスト等の数値では表しにくい内面の力であり、保育、教育活動等を通して、繰り返し取り組むことで育つ力(やり抜く力、自制心、協働性 等)

2	「主体的・対話的で深い学び」及び「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた授業改善（全国学力学習状況調査の分析と対応）	多様な教育ニーズに対応するため、「指導の個別化」と「学習の個性化」を子どもの視点から整理した「個別最適な学び」を進める。あわせて学びを広げるための「協働的な学び」の充実を図る。具体的に、「授業における5つの『徹底・継続』実践事項⁵」を充実させ、児童生徒の実態や学習状況等を適切に把握し、組織的に「主体的・対話的で深い学び」及び「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。 学力向上検討委員会及び小中学校で、日常の授業改善に資することを視点にして、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、対応策を講ずる。 学校ならではの「学び合い」を通して、子どもたちに「考える力」を育成するため、「めざすコミュニケーション能力育成の視点」等をすべての授業づくりに生かすように努める。	
3	きめ細やかな指導の充実を図るための指導補助教員等の配置	新しい時代に求められる資質・能力の育成の実現に向け、30人を超える小学校1年生の学級への指導補助教員の配置のほか、ALT（外国語指導助手）、英語教育推進員、特別支援教育支援員⁶、特別支援教育アドバイザー⁷、不登校対策指導補助教員を配置し、複数の教員によるきめ細やかな指導の充実を図る。	



演劇ワークショップ

⁵ 授業における5つの「徹底・継続」実践事項

2014年度全国学力学習状況調査の分析結果を基に学力向上検討委員会が提示した対応策

①めあて・学習課題の提示 ②考えを発表する場の設定 ③話し合う活動の場の設定 ④書く活動・活用する場の設定⑤振り返り活動の設定

⁶ 特別支援教育支援員

特別支援学級に在籍する子ども及び通常学級に在籍する身体的な障害、知的障害、発達障害等により特別な支援を要する子どもの学習活動や学校園生活が円滑に進むよう支援を行う。

⁷ 特別支援教育アドバイザー

発達障害を含む障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の在り方等について、教職員、特別支援教育支援員等に対し、支援・助言を行う。

施策② 身近な課題の解決・活用に向けた探究的な学び

取組	取組名	内容	検証
1	STEAM ⁸ の視点を入れた探究的な学びの推進	各教科や総合的な学習の時間において、STEAMの視点である「各教科での学習を実社会での問題発見・解決に活かしていくための教科横断的な教育」を入れ、「課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現」の探究の過程を繰り返す学びを推進する。具体的に、地域課題の解決を目的とした地域との連携や総合的な学習の時間を中心とした各教科の横断的な学び、一人一台端末の効果的な活用の充実を図る。	

施策③ 小中一貫教育⁹を核とした一層の連携教育

取組	取組名	内容	検証
1	ローカル＆グローバル学習の時間の充実	ローカル＆グローバル学習の時間として、ふるさと教育では、小学校3年生から中学校3年生において、「コウノトリ」「ジオパーク」「産業・文化」を共通の学習課題としたふるさと教育を実施する。豊岡・校区の「ひと・もの・こと」を学習素材とした探究的な学びを実現し、学習の成果を発信、交流する。 英語教育では、小中学校のすべての学年において、「小中9年間の系統性と連続性のある指導（学習内容や学習方法等）」を意識し、授業研究や授業実践を行う。子どもたちが学んだことを活用する場等を設定し、英語によるコミュニケーション能力を育成する。 コミュニケーション教育では、小中学校のすべての学年において、「めざすコミュニケーション能力の視点とその活動例」（豊岡市作成）に基づき、日常の学習、生活におけるコミュニケーション教育の充実を図る。小学校6年生と中学校1年生においては、演劇的手法を取り入れた授業を実施するとともに、プロ講師を招へいして授業公開及び協議会を行い、授業力の向上を図る。 また、その充実に向けた授業研究を行う。講師を	

⁸ STEAM

【*S: Science (科学)、T: Technology (技術)、E: Engineering (工学)、M: Mathematics (数学)、A: Arts (芸術)】

STEAM教育では、文理融合の学び（教科等横断的な学び）や探究的な学びを通して、実社会での問題発見・解決に活かし、積極的に社会に参画する態度を育成する。

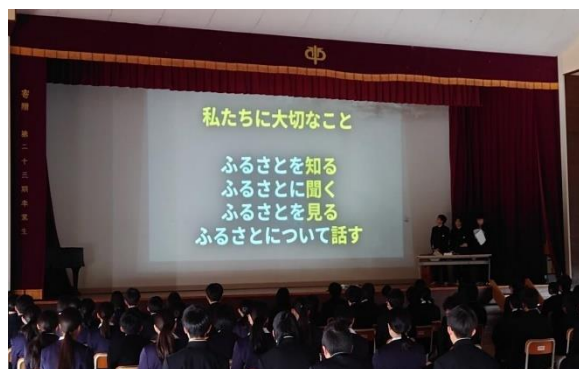
⁹ 小中一貫教育

めざす子ども像や育てたい資質・能力を共有し、「ローカル＆グローバル学習の時間」「学習指導と生活指導」の2つの視点で、子どもたちの9年間の学びと育ちを支え、生きる力を育む取組

		招へいした授業及び事後研究会等を市内教職員に公開し、指導力の向上を図る。	
2	系統性と一貫性のある寄り添い方で実践する学習指導と生活指導の充実	「授業づくりと学級づくりの一体化」「引継ぎ連携システム（アプローチ&スタートカリキュラム）の強化」「家庭・地域との連携」の3つの柱で推進する。	



English Summer Camp



ふるさと教育

施策④ 幼児期から児童期への円滑な接続

取組	取組名	内容	検証
1	架け橋期のカリキュラムを活用した園小接続の実践	園と小学校が連携して「架け橋期のカリキュラム」を作成し、活用しながら円滑な接続を図り、学びや生活基盤の育成を目指す。 従来から行われている交流活動等の機会を活用し、活動のねらい、配慮等を明確にすること、連携会議、相互参観などを行い、子ども理解を深め、教育・保育の工夫や相互理解を図る。	●

基本的方向3 「豊かな心」の育成

子どもたち一人一人が自己実現に向けて、地域や社会、生活、人生をより豊かなものとしていくためには、発達段階に応じた体験活動を通じて、豊かな人間性や社会性を育成することが重要である。また、豊かな学びを身に付けるうえで必要となる、文化芸術やスポーツ・地域行事等を体験する機会を、学校園と家庭、地域、関係機関が連携し確保していくことが必要である。

その実現に向けて、①生命の尊厳を基盤とした人権教育、②「対話」により考えを深める道徳教育、③体系的・系統的なキャリア教育、④子どもたちの発達段階に応じた体験を重視した活動、⑤読書活動の充実注に取り組む。

注 読書活動は、教育プランに基づく方策を「子どもの読書活動推進計画」に位置付け、総合的かつ体系的に取り組を進めていく。

〔指 標〕

指標名	2024現状値	2025目標値
■将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	小 81.1% 中 63.1%	小 87.4% 中 71.3%
■自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	小 87.9% 中 85.6%	小 89.1% 中 88.3%
□ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあると思う児童生徒の割合	小 95.8% 中 94.4%	小 96.4% 中 98.0%
□学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある児童生徒の割合	小 90.1% 中 91.8%	小 94.3% 中 96.0%
□学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり30分以上読書をする児童生徒の割合（教科書や参考書、漫画や雑誌除く）	小 30.0% 中 25.4%	小 42.3% 中 33.4%

施策① 生命の尊厳を基盤にした人権教育

取組	取組名	内容	検証
1	今日的な人権課題 ¹⁰ に対応した人権教育の充実	人権教育資料（改訂版「ほほえみ」「きらめき」）等を人権教育年間指導計画に位置付けるとともに、子どもたちの人権意識の高揚と教職員の指導力向上をめざした校内研修を計画的に実施する。 同和問題を人権課題の重要な柱と捉えつつ、いじめ、インターネットによる人権侵害、女性、子ども、高齢者、障害のある人、外国人や多様な性等の人権に関わる課題の解決に向け、総合的に人権教育に取り組む。	
2	家庭・地域・関係機関との連携した発達段階に応じた人権教育の推進	高齢者、障害者、外国人等との交流やボランティア活動、地域人材や専門家を活用した学習等、地域・関係機関、家庭と連携した活動の推進を図り、共生社会の実現に主体的に取り組む実践力を培う。	

施策② 「対話」により考えを深める道徳教育

取組	取組名	内容	検証
1	体験的・実践的な活動を通じた道徳性の育成	学校の教育活動全体で道徳教育と密接な関連を図りながら、組織的・計画的に取り組む。 また、地域の教材や人材を活用するとともに他者や自己との「対話」により生き方についての考えを深める「対話的な学び」を推進する。さらに、積極的に授業を公開し、家庭や地域の理解と協力を得るよう工夫する。	

施策③ 体系的・系統的なキャリア教育¹¹

取組	取組名	内容	検証
1	多様な体験活動の実施によるキャリア形成 ¹² への支援	他者と協力・協働して社会に参画する態度や、自ら考え主体的に行動し問題を解決する能力等を育成するため、発達段階に応じた多様な体験活動を実施する。 特に、ふるさと教育において、多様な体験活動を通じ、保護者や地域の人々、関係機関等と連携しながら、子どものキャリア形成を支援する。	

¹⁰ 今日的な人権課題

いじめ、インターネットによる人権侵害、感染症に関連した偏見や差別、多様な性への理解等に対する人権課題

¹¹ キャリア教育

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

¹² キャリア形成

自立した社会人・職業人として将来に必要な能力の育成

施策④ 子どもたちの発達段階に応じた体験を重視した活動

取組	取組名	内容	検証
1	児童会・生徒会活動、リーダー研修会等の充実	自分たちの生活をよりよくしようとする意識を高め、夢や志を持ったリーダーを育成するために、児童会・生徒会活動、中学校生徒会リーダー研修会等の充実を図る。	
2	福祉体験活動やボランティア活動など社会体験の機会の充実	「ふれあい育児体験」や高齢者・障害者との交流等を通して「思いやりの心」「命を大切にする心」等を育てる。 また、リサイクル活動、清掃活動、除雪活動、防災訓練等の地域活動への参加を促し、「自立心」や「ふるさとを愛する心」を育てる。 学校と地域、関係機関・団体等とのつながりを深め、社会全体で子どもを育む機会とする。	
3	一流の文化芸術に触れる機会や伝統文化等を鑑賞・体験する機会の充実	子どもたちの豊かな心の育成を図るため、おんぷの祭典や市美術展、出石永楽館狂言鑑賞教室等を通して、子どもたちが一流の文化芸術に触れたり、伝統文化等を鑑賞・体験したりする機会の充実を図る。	



中学校生徒会リーダー研修会



ふれあい育児体験



おんぷの祭典（学校訪問コンサート）

施策⑤ 読書活動の充実

取組	取組名	内容	検証
1	読書の習慣化と質の向上をめざした読書活動の推進	図書館員が年齢やテーマに応じた図書を選定して学校園に貸し出す団体貸出、お話し会やブックトーク¹³等、本の楽しさを伝える取組を推進する。 また、朝学習等を活用した一斉読書、家庭読書の取組を推進すると共に、国語科の「多読型単元¹⁴」をはじめ、様々な教科の学習過程を、読書活動と連動させ、子どもたちが多様なジャンルの本や文章にふれる機会を設定して、読書の習慣化と質の向上を図る。 さらに、読書活動を取り入れた指導の充実に向けた研究を行う。講師を招へいた授業及び事後研修会等を市内教職員に公開し、指導力の向上を図る。	●
2	図書や調べ学習の手がかりとなる情報の提供	テーマ別・年齢別等の、図書館員が作成した多様な図書リストを図書館ホームページで紹介したり、リストに掲載した本を図書館で展示するなどして、子どもたちが多様な本を手にする機会を作る。 また、調べ学習や興味のある事柄について、図書等を活用して自分で調べることができるよう支援する。	



おはなし会



ブックトーク

¹³ ブックトーク

テーマに沿って何冊かの本を順に紹介し、子どもたちに紹介した本や読書への興味を持たせる方法

¹⁴ 多読型単元

国語科において、複数のテキストを関連付けながら読んだり、学習したことを活用して読書（多読）につなげたりすることができる単元

基本的方向 4 「健やかな体」の育成

子どもたちが、生涯にわたって心身ともに健康で豊かな生活を送るために、健康で安全な生活を送り、運動やスポーツに親しむ資質・能力を育成することが重要である。

その実現に向けて、①望ましい生活習慣の形成を図る健康教育・食育、②体力・運動能力の向上に取り組む。

〔指 標〕

指標名	2024現状値	2025目標値
□新体力テストにおける小学校5年生と中学校2年生の体力合計点のT得点 ¹⁵	小5男 50.9 小5女 51.0 中2男 49.8 中2女 49.9 (全国平均T得点50)	小5男 51.5以上 小5女 51.5以上 中2男 50.4以上 中2女 50.4以上
□「運動やスポーツが好き」と回答した児童生徒の割合 ^新	小5男 94.0% 小5女 85.9% 中2男 94.2% 中2女 76.5%	小5男 98.3% 小5女 91.2% 中2男 95.3% 中2女 81.8%
□健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立っている児童生徒の割合 ^新	小 81.1% 中 74.2%	小 83.0% 中 76.0%
□学校給食において地場産物(市内産の野菜)を使用する割合	28.1%	30.0%

¹⁵ T得点

全国体力・運動能力調査結果における全国平均値(50)に対する相対的な位置を示し、単位や標準偏差が異なる調査結果を比較する。

施策① 望ましい生活習慣の形成を図る健康教育・食育

取組	取組名	内容	検証
1	規則正しい生活習慣（食事、運動、睡眠）の確立	心身ともに健康で豊かな生活を送るために、学校園だよりや啓発資料等を通じて家庭や地域と連携し、望ましい生活習慣（食事、運動、睡眠）の形成を図る。とりわけ、睡眠の大切さについての意識を高めるための取組を推奨する。	●
2	教育活動全体を通しての食に関する指導の充実	栄養教諭等と連携した食に関する指導を行うとともに、学校園の教育活動全体を通して、地域の産業や自然・食文化についての指導の充実を図る。 学校給食を「生きた教材」として活用したり、「食育の日」（毎月19日）や「弁当の日¹⁶」と関連付けたりしながら、学校園・学校給食センター・家庭・地域が連携した取組を行う。	
3	地産地消の推進と安全・安心な学校給食の提供	地域や地元生産者との連携を広げ、地場産物を生きた教材として活用し、ふるさとの食材について子どもたちの理解を深め、あわせてコウノトリ育む農法で作られたお米や市内産の野菜等を積極的に使用し、地産地消と有機農産物の使用の推進を図る。 また、学校給食センターにおける衛生管理体制や関係機関等と連携したアレルギー対応の充実を図り、安全安心な学校給食の提供を行う。	



学校給食

¹⁶ 弁当の日

食生活や健康についての関心を高めたり、家族への感謝の気持ちを育んだりすることを目的に、子どもたちが弁当作りやその手伝い（献立作りや買い物、調理等）を行う取組

施策② 体力・運動能力の向上

取組	取組名	内容	検証
1	豊岡市版小学校体育準備運動の共通実践と運動習慣の確立をめざした体育授業の充実	「幼児期の運動遊び」を小学校につなげる「豊岡市版小学校体育準備運動」、「運動と学習をセットにした豊岡モデル」を全小学校において実践する。 さらに、小中学校では「豊岡市版小学校体育準備運動」等の活用により十分な運動量を確保しながら、運動する楽しさや心地よさを味わわせる授業づくりに取り組むとともに、教育活動全体で継続的に身体を動かす取組を推進する。	●
2	各種スポーツ教室やスポーツイベントの実施によるスポーツと接する機会の充実	スポーツに親しむ資質・能力を育成するため、サッカー、バレーボール、野球等のトップアスリートや指導者を招へいし、市内の小中学生等のチームを対象とした教室の実施やスポーツフェスティバル等の開催を通じて、スポーツと接する機会の充実を図る。	



スポーツ教室

基本的方向 5 「生きる力の基礎」の育成

乳幼児期において、生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通じて、一体的に育みたい資質・能力の3つの柱「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」が育まれることが重要である。

その実現に向けて、①健康な体をつくる力の育成、②人と関わる力の育成、③思いを伝える力の育成、④自然や身近な環境に関わる力の育成、⑤感性豊かに表現する力の育成に取り組む。

〔指 標〕

指標名	2024現状値※1	2025目標値 ※3
□自ら体を動かして遊んでいる園児の割合 新 ※2	—	80.0%
□毎日朝食を食べている園児の割合	95.2%	97.4%
□自分の気持ちや考えていることを伝えている園児の割合新 ※2	—	80.0%
□外で遊ぶことが好きな園児の割合新 ※2	—	80.0%
□自分で工夫しながら夢中になって遊ぶことがある園児の割合新 ※2	—	80.0%
□毎週1回以上、家庭で絵本の読み聞かせをしている家庭の割合	62.8%	67.1%

※1 現状値は5歳児保護者アンケート調査結果による。

※2 2025年度から新設した指標（項目）。2024現状値は値が無いため「—」としている。

※3 2020年度から2024年度までのアンケート調査結果による最高値を、2025目標値として設定している。なお、2024現状値が最高値の場合は、2025目標値を「2024現状値以上」とする。

施策① 健康な体をつくる力の育成

取組	取組名	内容	検証
1	幼児期における運動遊びの充実	体づくりは、生きる力の基礎（学びに向かう力の基礎）であり、体及び気持ちのコントロールができるようになることである。 生活様式の変化、生活の中で身についていた力の衰弱化、外遊びの減少などを踏まえ、保育者が意識して 多様な運動遊びと運動量を確保した上で、楽しく体を使って遊べるよう保育を工夫し取り組む。 また、（運動遊びの）訪問回数の増加やオープンスクール等の機会、親子ふれあい遊び等を通じて、体を動かす遊びの楽しさを保護者へも伝え、運動遊びをより充実させる。	●

2	基本的生活習慣の定着とその推進	子ども一人一人の発達段階や家庭での生活経験を踏まえ、園生活の中で絵本や教材を活用しながら基本的生活習慣（睡眠・食事・排泄・着脱・清潔）の大切さを知らせ、身に付けられるよう取り組む。 また、家庭での子どもの実態を把握するため、生活リズム表を実施し共通理解を図るとともに、定着に向けて個別懇談会、園だよりや配信などを通して推進する。	
---	-----------------	--	--



運動遊び

施策② 人と関わる力の育成

取組	取組名	内容	検証
1	遊びを通じた人と関わる経験の積み重ね	やりたいことや好きなことに安心して取り組める環境づくりと友達と一緒にする楽しさや満足感を味わう経験ができるよう、一人一人の思いを理解しながら、教育・保育を工夫する。 また、遊びを通して、異年齢児、学校園、地域、高齢者など、多様な人と関わる機会をつくる。	●
2	英語遊び保育の充実	「遊びを通じて、楽しみながら英語を経験・体験する」ことにより、世界の人々と積極的にコミュニケーションを図ろうとする気持ちや外国の言葉や文化に興味を持とうとする気持ちの素地を育む。	



英語遊び

施策③ 思いを伝える力の育成

取組	取組名	内容	検証
1	伝える力と聞く力の育成	子どもが、安心できる保育者との信頼関係及び環境を基盤に、日々の園生活の中で保育者が子どもの思いを汲みとり、仲立ちしながら、思いを伝える楽しさや聞いてもらえた喜びの経験を積み重ねていくことができるよう努める。	

施策④ 自然や身近な環境に関わる力の育成

取組	取組名	内容	検証
1	自然や身近な環境に関わる経験の積み重ね	身近な自然との関わりの中で好奇心や探求心を高めたり、身近な「ひと・もの・こと」に主体的に関わり、試したり、工夫したりできるよう環境を整える。 また、子どもの「したい」「もっと」の気持ちに寄り添うとともに、満足感を得られるよう遊びの充実を図る。	●



自然に関わる体験活動

施策⑤ 感性豊かに表現する力の育成

取組	取組名	内容	検証
1	表現する力の育成	子どもが、興味や関心をもったこと、心が動いたことなどを自分なりに表現できるよう、様々な素材、空間、時間等の環境を構成し確保する。 また、表現してよかった、表現することは楽しいと思う気持ちを育むとともに、安心して表現できる信頼関係の構築に努める。	

基本方針 2 自分らしく安心して過ごせる学校園の創造と家庭・地域等との共創

すべての子どもたちが自分らしく安心して過ごし、学び、それぞれの幸福感を得る教育活動を実現していくためには、子どもの居場所をつくることが大切である。そのために、学校園・家庭・地域が連携・協働し、安全・安心な教育環境の整備・充実を図ることが必要である。

少子化に伴い児童生徒数が急激に減少している中で、社会全般で子どもたちを支えるための学校園・家庭・地域との連携・協働の推進、子どもたちの日常を保障するための安全・安心な教育の推進と教育環境の整備、子どもたちが抱える困難や課題への対応、多様な学びの推進等に対応するための教職員の資質・能力の向上、チーム学校としての働きがいのある学校づくり等の学校園の組織力の強化が重要である。

このため、以下の基本的方向に沿って、教育施策の充実を図る。

基本的方向 1 学校園・家庭・地域等の連携・協働の推進

子どもたちが自分らしく過ごし、豊かに学んでいくためには、学校園・家庭・地域が連携・協働し、地域社会全体で子どもの成長を支えていくという意識づくりが重要である。

家庭は、日常の生活におけるしつけや感性、情操を育む等すべての教育の出発点である。

学校園は、子どもたち一人一人が「在りたい自分」を創造するために大変重要な役割を担う。

学校園・関係機関は、子どもにとって望ましい基本的生活習慣や学習習慣を身に付けられるよう家庭と連携した取組を進め、不安を抱える保護者の相談・支援に取り組む必要がある。

また、地域においては旧小学校区を基本に地域コミュニティ組織があり、子どもへの地域への愛着の醸成や地域行事への参加を促すような取組等、保護者や地域住民の教育活動への参画を学校とともに促進していくことが求められる。加えて、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の実効的な活用を推進していくことが重要である。

その実現に向けて、①地域全体で子どもを育てる環境の充実、②地域コミュニティ組織と連携した学びの支援、③家庭の教育力向上のための支援に取り組む。

〔指 標〕

指標名	2024現状値	2025目標値
■ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある児童生徒の割合 ^新	小 93.5% 中 90.7%	小 96.7% 中 94.8%
□ 今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	小 88.0% 中 68.0%	小 88.7% 中 84.0%
■ コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校や地域や保護者の相互理解が深まったと思う学校の割合 ^新	小 31.8% 中 11.1%	小 41.7% 中 33.6%
■ PTCAあいさつ強化月間の取組参加者数	5月 5,114人 11月 5,263人	2024現状値以上
□ 保育園・認定こども園待機児童数	2人〔2024.9.1現在〕	0人
□ 放課後児童クラブ待機児童数	2人〔2024.9.1現在〕	0人

施策① 地域全体で子どもを育てる環境の充実

取組	取組名	内容	検証
1	子どもが参画する事業の推進（地域コミュニティ組織）	地域コミュニティ組織が主催するスポーツ大会や文化事業、防災訓練などは、子どもが事業に参画しやすい内容となるよう促していく。 また、ある地域コミュニティ組織では親子を対象としたイベント、子どもが企画するイベントを実施しており、横展開を図る。	
2	子どもを支える各種ボランティア活動の充実	読み聞かせに関する研修や交流の機会を設けて、学校園や図書館等で活動しているボランティアを支援する。また、子どもの読書活動についての理解者を増やし、新たなボランティアの育成につなげる。 また、登下校時の子どもの安全を確保するため、地域の安全ボランティアの方々が持続的に活動できるよう必要な支援を実施する。	
3	仕事と子育ての両立支援	仕事と子育ての両立を支援するため、保育園・認定こども園や放課後児童クラブの受入れ体制の拡充を図るとともに、安心して預けることができるよう園やクラブの職員に対する研修等を充実させ、質の向上を図る。 また、ファミリーサポートセンター事業では、地域での子育ての相互援助活動を推進するため、一時的な子どもの預かりや送迎などの取組を推進する。	
4	青少年健全育成活動の支援・推進	青少年を非行から守り、健全な育成を図ることを目的に、豊岡市青少年健全育成地区会議連絡会を組織し、地域・家庭・学校園・行政が連携、協働して青少年健全育成に取り組む。 また、子ども、保護者を対象にした適切なインターネット、スマホ利用についての啓発活動を推進する。	
5	中学校部活動の地域展開等の推進	地域や学校の実情に応じて、地域のスポーツ・文化団体との連携等、地域と協働して、中学生の持続可能で多様な文化・スポーツ活動の確保に向けた取組を推進する。	

6	豊岡市こどもセンター ¹⁷ を中心とした関係機関での連携	豊岡市こどもセンターを中心とした子どもに関わる機関の連携強化により、児童虐待の早期発見、対応に努め、支援を必要とする子どもや家庭を総合的に支援する。 学校園等から子どもの虐待通告があった場合は、子どもの安全確保を最優先し、県豊岡こども家庭センター・警察等と連携し、子どもの安全確認、一時保護等の要請を行う。
---	---	---



地域コミュニティ組織と子どもによる活動



図書ボランティア活動



ファミリーサポートセンター事業

¹⁷ 豊岡市こどもセンター

母子保健・児童福祉の両機能の連携・協働を深め、虐待への予防的な対応から子育てに困難を抱える家庭を支援することを目的として法律に基づいて設置するもの（児童福祉法第10条の2）

施策② 地域コミュニティと連携した学びの支援

取組	取組名	内容	検証
1	コミュニティ・スクール ¹⁸ を核とした地域学校協働活動 ¹⁹ の充実	地域全体で子どもを育てる「地域とともにある学校づくり」の充実に向け、学校・保護者・地域関係者等で組織する学校運営協議会において、めざす子ども姿や学校の課題を共有するとともに、課題解決に向けた地域学校協働活動の充実を図る。	●
2	地域で大人が子どもに教える事業推進（地域コミュニティ組織）	地域の大人が、地域の子どもの、地域に伝わる風習や伝統行事、農業や産業、地域資源などを教える取組を、地域コミュニティ組織が中心となって実施するよう促進する。	
3	学校と地域コミュニティ組織の連携事業実施	登下校の見守りやあいさつ運動等、学校に対する協力活動への地域住民の参画や、地域コミュニティ組織におけるイベントへの子どもの参加促進等、「地域と学校、双方向の連携・協働」を推進し、地域全体で子どもを育てる取組を充実させる。	



地域学校協働活動

¹⁸ コミュニティ・スクール

学校運営協議会を設置した学校を指し、学校と保護者や地域がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める、法律（地教行法第47条の6）に基づいた仕組み

¹⁹ 地域学校協働活動

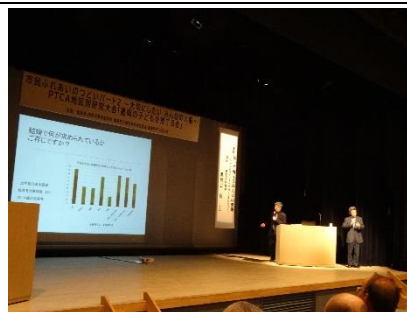
地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動

施策③ 家庭の教育力向上のための支援

取組	取組名	内容	検証
1	家庭での基本的生活習慣と学習習慣の確立	基本的な生活習慣の実践と家庭学習及び読書の習慣化、非認知能力向上の取組の啓発を図るため、「はばたきメッセージ²⁰」を学校園の全保護者に配付する。 また、学校・家庭・地域ぐるみでこれらの取組を推進するため、学校だよりによる啓発、豊岡市PTA連合会や各校PTA等との連携に取り組む。	
2	子育てに関する相談の充実	各子育てセンターやこども支援センター、予約不要で保健師に相談できる「子育てなんでも相談室」などが連携し、子育てに関する悩みや不安を抱える保護者にとって、寄り添った支援となるよう努める。	
3	PTAとの協働と活動支援	豊岡市PTA連合会及び各単位PTAにおいて、子どもたちの健全な育成を目的とし、学校・保護者の負担感の軽減を図りながら、地域の実情に応じた柔軟かつ多様で有意義な活動となるよう支援する。 また、学校・家庭・地域が互いに連携し、直面する課題の共有、課題解決に向けての意見交換や研修会の開催など、市PTA連合会と連携・協働して取組を進める。	
4	ブックスタート ²¹ の推進	すべての乳児に絵本をプレゼントし、その保護者に絵本を紹介したり読み聞かせの楽しさを伝えることで、家庭での親子読書（家読）に取り組むきっかけを作る。 また、フォローアップとして、図書館で乳幼児向けのおはなし会や、託児サービスを実施して、子育て世代の家族が読書を楽しめる時間を提供する。	



PTA 活動



²⁰ はばたきメッセージ

子どもたちの心身ともに健やかな成長を願い、教育の原点である家庭生活における実践内容をメッセージとして豊岡市教育委員会がまとめたもの

²¹ ブックスタート

7か月児健康診査に合わせ、絵本を開く楽しい「体験」と「絵本」をセットでプレゼントする活動

基本的方向 2 安全・安心な教育の推進と教育環境の整備

子どもたちが安全・安心で快適な学校生活を送ることができるよう、安全で質の高い教育環境の整備・充実や、安全教育・防災教育の推進を図ることが必要である。また、急激な少子化の進行による課題に対応するため、学校園の適正規模・適正配置を推進することも重要である。加えて、すべての子どもたちが未来に希望をもち、家庭の経済事情によって「学び」が止まることがないようにすることも大切である。

その実現に向けて、①施設の計画的な改修と I C T 環境整備等教育環境の整備・充実、②通学（園）手段の確保、③安全教育・防災教育の推進、④学校園の再編、⑤就学・修学支援に取り組む。

〔指 標〕

指標名	2024現状値	2025目標値
小学校体育館空調設備整備 ※義務教育学校含む ^新	0 校/22 校	6 校/22 校 【小 21 校・義務 1 校】
児童生徒用トイレの洋式化 ^新	洋式化率 44.0% 【小 22 校・中 9 校】	洋式化率 46.7% 【小 21 校・中 8 校・義務 1 校】

施策① 施設の計画的な改修と I C T²²環境整備等教育環境の整備・充実

取組	取組名	内容	検証
1	学校園の長寿命化及び教育環境向上に向けた計画的な改修	学校施設個別施設計画に基づき、計画的に建物の長寿命化改修、改築工事を行う。2025 年度までに対象 2 校（三江小、竹野学園）の整備完了をめざす。	
2	I C T 環境の整備	子どもたちの情報活用能力、情報モラルを育成し、協働学習等新しい学習を推進するため、教育用コンピューター等を整備するとともに、学習支援ソフトを導入し、子どもたちが主体的に学び合う授業の質の向上を図る。 児童生徒 1 人 1 台端末の活用に必要な環境整備を進める。	●



子どもたちの ICT 活用

²² I C T

I C T (information and Communication Technology) 情報通信技術の略。通信技術を活用したコミュニケーションの総称

施策② 通学（園）手段の確保

取組	取組名	内容	検証
1	安全で安心できる通学環境の整備	交通安全、防犯、防災について、警察、県及び市の道路部局等の関係機関と連携して、点検・整備を行う。 学校園では、保護者、地域の安全ボランティアによる見守り活動と連携を図りながら、安全で安心して通学（園）できる環境を整える。 また、小学生への防犯対策として、小学校へ入学する全児童に防犯ブザーを無償配布する。	
2	路線バスがない地域でのスクールバス運行	遠距離通学・通園する子どもたちのために通学（園）手段を確保するため、路線バスやＪＲなどが運行されていない地域においては、スクールバスなど、通学手段の確保を図る。	



スクールバスでの登下校

施策③ 安全教育・防災教育の推進

取組	取組名	内容	検証
1	過去の災害を踏まえた防災・減災授業の実施	「水害に関わる防災授業資料」、「台風23号に係る防災教育資料」、防災教育副読本「明日に生きる」等を活用し、過去の災害を踏まえた年3回のメモリアルデー²³防災・減災授業を実施する。体験型の防災教育を充実させ、過去の教訓を継承していくことで、子ども自らが状況を判断し、「自分の命は自分で守る力」、「助け合いや共生の心」を育む。	

²³ メモリアルデー

北但大震災（5月23日）、台風23号水害（10月20日）、阪神・淡路大震災（1月17日）



防災・減災授業

施策④ 学校園の再編

取組	取組名	内容	検証
1	「豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画」に基づく学校再編の推進	2025 年度は、豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画の中間評価及び時点修正を行うほか、現在進めている再編について、引き続き調整する。 ①竹野学園の開設 2 学期からの低学年棟利用開始に向けた調整（調度品の購入、引っ越し作業、竣工式の実施等）を行う。 ②小坂小学校・小野小学校の再編 2024 年度の協議を踏まえ、2025 年度は学校間交流、閉校式等の開催に向けた具体的な協議を行う。 ③但東地域の小中学校の再編 義務教育学校への再編の合意に向け、地区との協議を引き続き進める。	●
2	「豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画」の推進	急激な少子化に対応し、適正規模の子どもの集団を確保するため、「豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画」の見直しに向け検討する。	



小中一貫校の整備（竹野学園完成イメージ）

施策⑤ 就学・修学支援

取組	取組名	内容	検証
1	就学援助費の支給	経済的な理由により、小中学校への就学が困難な児童・生徒の保護者に対し、学用品費・給食費・修学旅行費などの一部を援助する。 なお、就学援助費のうち、新入学児童生徒学用品費を原則として入学前に支給する。 （援助対象：生活保護及び生活保護に準ずる家庭）	
2	特別支援教育就学奨励費の支給	特別支援学級在籍児童生徒等の保護者の経済的負担を軽減するため、学用品費や給食費等、就学に必要な経費の一部を援助する。（所得制限あり）	
3	豊岡市奨学金、豊岡市交通遺児奨学金の運営	勉学意欲がありながら、経済的理由により修学が困難である方に対し、豊岡市奨学金を貸与する。 また、保護者が交通事故で死亡、または著しい障害のため、働けなくなった方の子に対し、豊岡市交通遺児奨学金を給付する。	

基本的方向 3 教職員の資質・能力の向上

新しい時代に求められる資質・能力の育成や子どもたちの多様な学びを実現していくためにも、教職員の資質・能力の向上は必要である。教育環境が複雑化・多様化している中、教育に対する強い情熱・専門家としての確かな力量・豊かな人間性を備えた人材の確保・育成、学校園の接続を意識した日々の授業改善を軸とする系統的・組織的な研修体制の構築・推進は重要である。

その実現に向けて、①教職員の資質と実践的指導力の向上、②園小接続の推進に向けた教職員研修、③多様性に配慮した教育・保育の推進に取り組む。

〔指 標〕

指標名	2024現状値	2025目標値
■先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う児童生徒の割合	小 93.9% 中 93.4%	小 94.9% 中 95.4%
■困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる児童生徒の割合 ^新	小 71.0% 中 69.0%	小 72.1% 中 72.5%
□授業中に学習に対する児童生徒の興味・関心を高めるために、コンピューターや提示装置を活用して資料などを効果的に提示できる教職員の割合	小 [2023] 93.1% 中 [2023] 87.3%	小 95.0% 中 90.4%

施策① 教職員の資質と実践的指導力の向上

取組	取組名	内容	検証
1	教員の指導力の向上を図る校内研修等の充実	本市が大切にしてきた「子どもと向き合う姿勢」、「すべての学校における特別な支援を必要とする児童生徒への対応」についての研修や、情報教育・ICTに関する研修、教職員の服務規定に関する研修等の充実を図る。 また、各学校等における教育課題を明らかにするとともに、課題解決に向けて外部講師の招へい等により、校内研修の充実を図る。 あわせて、市内各校の校内研修等への相互参加や豊岡市教育委員会学校訪問等を効果的に活用する。	●
2	年次研修、担当者研修、その他各種研修の充実	初任者の教職員としての資質・能力の向上を図るため、演習や授業研究を中心にした研修を年3回程度行う。若手教職員を対象に実践的な研修を行い、授業力等の向上を図る。 また、校内研修担当者を対象とした研修会や豊岡市授業づくり学級づくり研修会、豊岡市中学校教育研究会・教科部会等の充実を図る。	

3	就学前の教育・保育計画「第2次スタンダード・カリキュラム²⁴」及び「手引き」を活用した就学前教育の充実	乳幼児期は、生涯にわたって必要な「生きる力の基礎」を育む大切な時期であることを踏まえ、「第2次 スタンダード・カリキュラム」の育てたい5つの力 ①健康な体をつくる力 ②人と関わる力 ③思いを伝える力 ④自然や身近な環境に関わる力 ⑤感性豊かに表現する力 を柱とした教育・保育に努める。 そのために、保育者は子ども一人一人に寄り添い、子ども理解を深め、保育の実践力を高めていく。 (1) 公開保育研修「まなびの公開保育」の充実を図る。 (2) 0歳児から5歳児までの発達を捉えた保育実践に向け、保育者の経験年次別研修の一層の充実を図る。 (3) 保育者相互の理解を深めるため、園内研修の充実を図る。	
---	---	---	--



初任者研修



公開保育研修

²⁴ 第2次スタンダード・カリキュラム（2020年2月策定）

2017年の「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の改訂を踏まえ、2010年に策定した豊岡市の就学前教育・保育年間指導計画を改訂・更新したもの

施策② 園小接続の推進に向けた教職員研修

取組	取組名	内容	検証
1	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 ²⁵ 」を踏まえた園と小学校職員の相互理解	園と小学校の相互参観を実施し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに相互理解に努める。 また、「まなびの公開保育」等で子どもの姿を見取り、その事後の研修などを通して子ども理解に努めるとともに、育ちの連続性に配慮した学びの積み重ねを図る。 あわせて、有識者を招へいした園小合同の研修会を開催し、担任に限らず、学校園全体の意識向上を目指す。	

施策③ 多様性に配慮した教育・保育の推進

取組	取組名	内容	検証
1	多様性・ジェンダーに関する研修（オリジナル絵本の活用方法等を含む）	教職員が多様性やジェンダーギャップ解消の必要性について理解を深め、子どもたちに多様性の大切さを伝えるため、オリジナル絵本「みらいへの つばさを ひろげて」の活用方法等に関する研修会を実施する。 また、「こころ」と「からだ」を大切にする発達段階に応じた包括的性教育（人間関係、価値観、人権、セクシュアリティ、ジェンダー、人間のからだと発達、性と生殖に関する健康などの理解）に関する研修会を実施する。	
2	外国にルーツを持つ子どもの支援のための研修	外国にルーツを持つ子どもが安心して学校園生活を送ることができる環境を整えるため、教職員が外国文化、子育て文化、生活習慣、子どもの言語獲得等にかかわる専門知識等を学ぶ研修会を実施する。	



外国にルーツを持つ
子どもの支援のための研修

²⁵ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

2017(平成29)年度告示の「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」で示された共通の姿。「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」の10の姿がある。

基本的方向 4 学校園の組織力の強化

一人一人の子どもに寄り添った教育の実現や複雑化・困難化する教育課題に適切に対応していくためには、教職員が心身ともに健康で最大限に能力を発揮できる環境整備が必要である。管理職のマネジメントのもと、教職員一人一人の力を組織的かつ機動的に生かした協働体制づくりや業務の効率化、健康の保持・増進等を含めた働きがいのある学校づくりを推進し、子どもたちの学びを充実させることが重要である。

その実現に向けて、①学校園運営の効率化・組織化、②働きがいのある学校づくり、③教職員の健康管理に取り組む。

〔指 標〕

指標名	2024現状値	2025目標値
■学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいる学校の割合 ^新	小 81.8% 中 88.9%	小 2024現状値以上 中 2024現状値以上

施策① 学校園運営の効率化・組織化

取組	取組名	内容	検証
1	I C Tの活用等、教員等の業務負担軽減に係る取組の推進	校務支援システムをはじめとする I C Tの積極的活用や、各種会議、行事の精選、外部人材による業務分担等、業務改善に向けた取組をさらに進め、より一層、勤務時間の適正化を図る。	
2	管理職、ミドルリーダーに係る各種研修	地域や保護者に信頼される学校園経営の在り方について研修を行い、管理職及びミドルリーダーとしての資質・能力の向上を図る。 あわせて、市の教育課題を協働して解決するため、情報共有し、対応策を協議する。	

施策② 働きがいのある学校づくり

取組	取組名	内容	検証
1	学校園における働き方改革の推進	「学校における働き方改革」推進方針（2023年度策定）に基づき、市、学校、家庭・地域等を含めたすべての関係者がそれぞれの立場から学校園における働き方改革に取り組む。 また、教職員の心身の健康の保持増進と、誇りとやりがいを持って職務に従事できる環境を整備するため、業務の見直しや削減、校務支援システムの効果的な活用により校務の効率化を図るなど、教職員の勤務時間の適正化に取り組み、学校教育の質の向上を図る。 あわせて、教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）や部活動指導員等の外部人材や専門スタッフを配置し、業務を分担することで、超過勤務時間の縮減を図る。	●



外部人材による部活動指導

施策③ 教職員の健康管理

取組	取組名	内容	検証
1	年次休暇の取得促進、各種休暇制度の周知等、ワーク・ライフ・バランスの推進	年次休暇の取得促進、各種休暇制度の周知、自己研鑽の奨励、男性の家事・育児への参画等、ワーク・ライフ・バランスの推進を図る。 また、教職員のメンタルヘルス不調を未然に防止するため、ストレスチェックを実施し、教職員のストレスへの気付きを促すとともに、ストレスチェックの結果を踏まえた職場環境改善に取り組む。	

資 料

- ◇資料 1 豊岡市小中一貫教育「豊岡こうのとりのプラン」概要
- ◇資料 2 豊岡市不登校対策アクションプラン
- ◇資料 3 新体力テスト結果（2024 年）
- ◇資料 4 くらしのアンケート結果（2024 年）
- ◇資料 5 児童生徒数の推移

豊岡市小中一貫教育の目的と内容

1 目的

- (1) 子どもたちの非認知能力を高め、小さな世界都市をめざす豊岡の未来を創造する子どもを育成する。
- (2) 一人一人の子どもたちが「在りたい自分」を創造する教育の推進～3つの教育課題（不登校・学力・特別な支援が必要な子どもたちの教育的ニーズへの対応）の改善～

2 内容

- (1) 系統性と一貫性のあるカリキュラムで実践するローカル＆グローバル学習の時間
 - ① ふるさと教育
 - ② 英語教育
 - ③ コミュニケーション教育
- (2) 系統性と一貫性のある寄り添い方で実践する生活指導と学習指導
 - ① 授業づくりと学級づくりの一体化
 - ② 引継ぎ連携システムの強化
 - ③ 家庭・地域との連携

3 豊岡市小中一貫教育に係る施策の総称

豊岡市では、これまで小中連携教育に取り組んできた。その取組の総称を「はばたきプラン」とし、中1ギャップ問題と学力問題の改善に向け共通実践と中学校区の独自実践を柱に据え取組を進めてきた。そして、2017（H29）年度から、小中連携教育の実効性を一層高める小中一貫教育へシフトするにあたり、小中一貫教育として位置付ける取組の総称を「豊岡こうのとりプラン」とした。小中一貫教育の目的に示した通り、課題を改善するとともに、非認知能力を高めることを土台にして、豊岡で夢や目標を実現させる子ども、また、豊岡に軸足を置きながら世界規模で考え世界にもはばたいていく子どもの姿の象徴として「こうのとり」をプラン名に冠した。

4 豊岡こうのとりのとりプラン全体構想図

2つの視点と6つの柱で9年間の学びと育ちを支え、生きる力を育む「豊岡こうのとりのとりプラン」

豊岡で育む 「在りたい自分」と「在りたい未来」を創造する力
～非認知能力（やり抜く力・自制心・協働性）を子どもたちに～

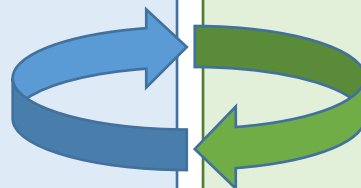
系統性の一貫性のあるカリキュラムで実践する
ローカル＆グローバル学習の時間

系統性の一貫性のある教育観・指導観で実践する
学習指導と生活指導

ふるさと教育

「コウノトリ」「ジオパーク」
「産業・文化」を共通の学習課題にし、豊岡の「ひと・もの・こと」を学習材として、ふるさと豊岡の未来を探究する学びを通して、ふるさととつながり誇れる力の育成をめざします。

非認知能力の向上



授業づくりと学級づくりの一体化

授業における5つの徹底・継続実践事項を軸にした「分かる授業」と、肯定的な人間関係を構築する学級づくりを一体化させ、“授業で子どもに寄り添い、授業で学級をつくる”ことをめざします。

英語教育

小学校1年生から、外国語指導助手のネイティブな発音に触れる機会を通して、英語遊び⇒外国語活動⇒外国語科へと9年間の系統性と連続性のある学習で、英語でふるさとのこと自分のことを語る力を高めます。

コミュニケーション教育

グローバルコミュニケーションスキルの獲得を見据え、性別や年代を超えて、対等な関係の中で自分を主張し、他者を理解できる基礎的なコミュニケーション能力の育成をめざします。

引継ぎ連携システムの強化

子どもの声に耳を傾け、子どもたちの願いや課題を教職員が確実に共有し引継ぐことで、子どもに寄り添う支援・指導を行います。

家庭・地域との連携

「家庭・地域等との共創」「コミュニティ・スクール」の視点で、学校園・家庭・地域が一層緊密に連携することで、子どもたちの成長を支えます。

子どもたちの非認知能力を高め、
小さな世界都市を目指す豊岡の未来を創造する子の育成

一人一人の子どもたちが「在りたい自分」を創造する教育の推進
～3つの教育課題（不登校・学力・特別な支援が必要な子どもたちの教育的ニーズへの対応）の改善～

豊岡市不登校対策アクションプラン

2024年4月改訂

【テーマ】			学校の取組	地域の取組	支援関係機関の取組	教育行政の取組
豊岡市一丸となり、一人一人の多様なニーズに応じた不登校対策を推進し、子どもの社会的自立を目指す			学校を みんなが安心して学べる 場所にする チーム学校として組織的・継続的な取組の推進	地域での つながりと居場所づくり を広げる 学校・家庭・地域の連携強化	多様な学びの場 を確保する 豊岡市こども支援センターを核とした施設間のネットワークづくり	ケースに応じた効果的な支援 を行う ケースに応じた効果的な支援
不登校を生まないために	発達支持的生徒指導	課題未然防止教育	○児童生徒への理解を深め、児童生徒が「一人の人間として大切にされている」という自己存在感を実感する授業づくりや学級づくりの充実 ○非認知能力向上を目指した教育活動の展開 ○授業における5つの「徹底・継続」実践事項を軸とした分ける授業づくり ○全職員での不登校対策支援プランの共通理解、プランの実践・検証・改善	○地域行事等を通じた、地域と子どもとのつながりを拡大 ○コミュニティ・スクール事業促進 ○地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の充実 ○地域の見守り協力体制の構築 ○体験活動できる場や人の提供	○活動内容等の積極的な発信と、各学校との連携協力体制の充実 ○多様な学びの場を確保するために、関係機関や民間施設との緊密なネットワークづくり ○豊岡市こども支援センターによる学校訪問活動 ○こども理解研修講座の実施	○不登校対策に関する発信と相談窓口の充実 ○不登校担当教員や不登校指導補助教員の研修の実施 ○授業づくり学級づくり研修の継続発展
			○SC・SSW等と連携し、児童生徒がSOSを出す力を身に付ける教育の推進 ○「チーム学校」の体制づくり（生徒指導研修・教育相談体制の充実・開かれた学校づくり） ○保護者とともに活動する学校づくり ○定期的なアンケートや教育相談により、児童生徒の些細な変化に気づく（アセス・心のケアアンケート等の実施、子どもの心を理解する強化月間の実施）	○コミュニティ・スクールや地域団体が主体となった連携強化 ○見守りボランティアによる声かけ ○地域行事への参加促進 ○体験活動の場の整備と保護者への参加呼びかけ	○市や学校との意見交換の場の設定など連携協力体制の構築 ○不登校の実態把握と分析、研修会の実施 ○豊岡市こども支援センターによる学校訪問活動 ○SSWによる福祉的視点から子どもを取り巻く環境への働きかけ	○学校への専門家の配置等体制を整備する（SC・SSW、各関係機関職員等） ○不登校対策実践事例集の作成・活用 ○豊岡市不登校等対策委員会の実施 ○小中一貫教育（アプローチ&スタートカリキュラム）の推進 ○保幼小中の連携推進（『豊岡こうのとりのりプラン』に基づく事業展開）
不登校への対応	課題早期発見対応	課題早期発見対応	○学校不登校対策チームによるアセスメントとケース会議の実施等、早期の段階からの対応 ○生徒指導研修の充実（教職員の受体力の向上と情報共有） ○SCによるストレスマネジメント授業等の実施 ○保護者と連携した支援体制づくり ○関係機関や民間施設との連携	○不登校の傾向が見られる児童生徒やその保護者が相談できる場所や機会の確保 ○不登校の傾向が見られる児童生徒が学習できる場の提供 ○民生児童委員との情報交換会	○豊岡市こども支援センターによる教育相談体制の充実 ○個々の対応策についての助言・援助 ○臨床心理士等によるカウンセリングの実施 ○関係機関や民間施設との情報交換会	○児童生徒理解、SOSや些細な変化に気づくための研修の実施 ○学校訪問による情報交換や支援の提供 ○学校問題サポートチームの活用 ○心のケアアンケート実施後の分析
			○安全で安心できる居場所づくり（校内サポートルームの設置） ○ICTを活用した支援（授業・学校行事配信等） ○SC・SSW等と連携したケース会議の実施 ○保護者の心情に寄り添った支援の充実 ○多様な自立の在り方に向けての進路支援 ○関係機関や民間施設との連携	○不登校児童生徒やその保護者が相談できる場所や機会の確保 ○不登校児童生徒が学習できる場の提供 ○民生児童委員との情報交換会	○不登校児童生徒やその保護者が相談できる場所や機会の確保 ○不登校児童生徒及びその保護者が選択できる多様な学びの場の提供と計画的な支援（ICTを活用した教育環境の充実・ケース会議の開催） ○臨床心理士等によるカウンセリングの実施 ○関係機関や民間施設との情報交換会	○不登校指導補助教員等の配置による校内サポートルーム等の充実に向けた支援 ○多様な学びの場の提供（ロートこども未来財団等） ○ケースに応じた効果的な支援の在り方の調査・検討（学校訪問活動、対応策の助言等） ○関係機関や民間施設との連絡調整

※SC：スクールカウンセラー SSW：スクールソーシャルワーカー

※豊岡市は2024年度悉皆調査、国(2023)・県(2022)は抽出調査による

県・全国の間

県・全国より上
回っている県・全国より下
回っている

2024年度 新体力テスト比較表(小学校)

数値は平均値

	1年						3年						5年					
	男			女			男			女			男			女		
	2024	2023	2022	2024	2023	2022	2024	2023	2022	2024	2023	2022	2024	2023	2022	2024	2023	2022
	豊岡	県	全国	豊岡	県	全国	豊岡	県	全国	豊岡	県	全国	豊岡	県	全国	豊岡	県	全国
握力	8.39	8.74	9.13	7.71	8.28	8.52	12.46	12.13	12.46	11.46	11.61	11.76	15.58	16.02	16.73	15.09	15.86	16.45
上体起こし	9.41	10.80	11.82	10.35	10.63	11.77	15.57	15.04	16.05	15.18	14.65	15.70	17.09	18.90	20.01	17.77	17.81	18.50
長座体前屈	25.98	25.28	26.56	28.11	27.67	28.49	29.89	28.56	29.91	33.17	31.88	33.08	31.75	32.95	34.35	36.89	36.69	37.81
反復横とび	26.20	26.92	27.36	26.35	25.91	26.88	35.96	33.35	34.64	33.94	32.11	33.34	41.93	40.91	42.73	41.50	39.00	39.93
20mシャトルラン	17.65	16.35	18.11	15.21	13.84	15.60	38.40	32.79	35.17	30.25	25.03	27.77	51.42	49.20	51.19	44.99	37.99	40.44
50m走	11.77	11.59	11.47	12.27	11.94	11.77	10.19	10.14	10.13	10.57	10.52	10.42	9.52	9.34	9.30	9.64	9.67	9.57
立ち幅とび	112.96	115.55	116.98	109.14	107.16	108.42	136.01	135.37	136.59	133.96	127.88	128.26	153.12	153.28	156.04	150.87	146.04	148.68
ソフトボール投げ	7.71	7.62	8.27	5.11	5.20	5.63	16.12	14.02	14.98	10.29	8.94	9.33	22.82	21.20	21.88	15.88	13.09	13.42

2024年度 新体力テスト比較表(中学校)

	1年						2年						3年					
	男			女			男			女			男			女		
	2024	2023	2022	2024	2023	2022	2024	2023	2022	2024	2023	2022	2024	2023	2022	2024	2023	2022
	豊岡	県	全国	豊岡	県	全国	豊岡	県	全国	豊岡	県	全国	豊岡	県	全国	豊岡	県	全国
握力	24.07	23.46	24.69	21.59	21.47	21.38	32.23	28.91	30.21	24.70	23.39	23.99	36.17	33.60	34.53	26.01	24.91	25.24
上体起こし	22.64	22.35	23.68	18.98	19.33	19.93	26.29	25.46	26.59	21.25	21.44	22.54	28.32	27.92	28.63	22.71	23.14	24.00
長座体前屈	36.74	38.81	40.67	40.66	42.45	44.40	44.29	42.50	45.14	45.77	44.57	47.30	47.70	45.48	49.23	48.28	46.88	49.39
反復横とび	48.41	48.79	50.14	45.11	44.94	45.20	53.73	52.49	52.95	47.19	46.70	47.86	54.85	54.62	56.01	47.21	47.86	48.59
1000m.1500m	459.28	427.76	418.49	322.13	309.43	308.69	396.89	391.47	396.52	299.26	296.30	289.74	393.56	378.38	378.05	300.43	293.03	294.17
50m走	8.51	8.42	8.37	9.01	9.09	9.02	7.80	7.84	7.83	8.75	8.81	8.76	7.52	7.48	7.49	8.76	8.70	8.68
立ち幅とび	180.96	180.83	186.11	162.84	163.62	167.06	203.15	198.35	203.79	171.34	167.86	172.96	213.55	213.05	217.30	172.70	172.25	176.01
ハンドボール投げ	17.23	17.00	17.98	11.11	11.05	11.58	20.37	19.93	21.03	13.37	12.30	13.32	22.01	22.53	23.80	13.59	13.38	14.05

くらしのアンケート 集計結果

※調査は隔年実施

資料 4

単位(%)

1 生活実態に関する調査

年度			小学3年生					小学5年生					中学2年生				
			2016	2018	2020	2022	2024	2016	2018	2020	2022	2024	2016	2018	2020	2022	2024
1	テレビやゲームは、1日何時間くらい見たりしますか。	① 見ない	4.1	3.6	2.2	3.8	1.1	1.4	2.4	0.8	0.8	1.4	1.0	0.3	0.8	0.8	1.1
		② 1時間まで	34.2	30.3	22.8	27.4	28.5	13.7	21.8	11.9	11.7	12.7	15.4	9.6	5.9	8.4	4.5
		③ 1～2時間	34.6	33.5	39.1	37.6	35.2	38.8	35.2	31.4	31.0	33.8	35.2	39.8	36.4	30.4	27.2
		④ 2～3時間	15.6	18.3	18.7	16.8	18.4	24.5	22.7	33.3	29.2	28.3	29.1	28.4	30.0	32.9	35.5
		⑤ 3時間以上	11.8	14.3	17.1	14.4	16.8	21.5	17.9	22.6	27.4	23.8	21.7	21.8	26.9	27.6	31.7
2	睡眠時間は、何時間くらいですか。	① 6時間まで	2.7	2.2	2.9	4.7	4.1	1.8	2.1	1.2	1.0	2.3	10.0	4.6	5.1	6.7	6.1
		② 6～7時間	5.8	6.8	4.1	6.1	8.8	8.0	6.0	5.1	6.0	4.3	36.4	34.0	26.4	32.3	26.7
		③ 7～8時間	15.1	10.0	10.4	10.2	14.2	19.1	17.5	16.2	15.9	17.5	37.1	44.7	45.4	42.3	40.3
		④ 8～9時間	38.4	37.6	41.5	34.3	39.2	45.6	43.6	42.9	48.4	46.9	13.0	13.7	19.5	15.3	22.1
		⑤ 9～10時間	31.7	33.9	37.7	39.5	26.3	20.9	25.2	31.6	25.8	26.7	2.9	2.3	2.6	2.8	4.0
		⑥ 10時間以上	6.6	9.6	3.5	5.2	7.4	4.6	5.6	3.1	3.0	2.3	0.7	0.8	1.0	0.6	0.8
3	家庭学習の時間は、1日何時間くらいですか。	① ほとんどしない	2.3	10.2	6.1	8.5	13.1	3.4	2.6	3.1	6.5	10.4	10.9	6.3	5.4	7.8	12.3
		② 15分くらい	7.0	9.8	11.8	16.1	26.2	4.2	7.1	6.8	9.3	13.6	3.8	3.8	4.6	3.9	9.1
		③ 30分くらい	33.8	30.9	34.2	36.3	33.3	17.5	26.9	30.2	35.1	30.4	12.5	20.3	14.6	21.7	24.5
		④ 1時間くらい	40.0	32.7	33.2	26.3	20.6	41.6	34.2	36.1	35.7	30.1	30.3	32.0	36.4	39.0	33.1
		⑤ 1時間30分くらい	12.4	11.8	9.6	9.5	4.8	25.5	22.9	20.5	10.9	11.6	26.0	24.6	27.7	21.4	13.3
		⑥ 2時間以上	4.8	4.8	5.1	3.3	2.0	7.8	6.2	3.3	2.4	3.9	14.7	12.9	11.3	6.1	7.7
4	1日に家で、読書はどれくらいしますか。	① ほとんどしない	29.9	36.6	34.0	31.9	36.6	33.1	35.3	38.8	39.5	41.7	62.4	58.6	57.9	65.2	58.9
		② 10分くらい	26.1	27.6	29.5	28.6	32.8	27.5	25.8	25.0	22.8	25.2	12.8	15.5	16.4	13.6	18.4
		③ 20分くらい	20.5	16.8	18.9	18.4	12.9	17.5	19.7	16.4	17.1	15.0	6.9	10.9	9.5	8.1	9.3
		④ 30分くらい	13.5	9.6	10.6	12.1	9.2	13.1	12.0	9.9	10.7	10.2	11.6	8.1	8.5	8.9	7.5
		⑤ 40分以上	10.2	9.4	6.9	9.0	8.5	8.8	7.1	9.9	9.9	7.9	6.4	6.9	7.7	4.2	5.9
5	お手伝いはしていますか。	① ほとんどしない	8.7	9.2	10.6	15.4	21.7	8.6	7.7	6.2	8.9	10.0	19.4	17.8	11.5	12.8	11.5
		② きまった仕事があり、ほとんど毎日する	28.8	26.9	25.1	27.7	25.8	25.1	28.2	30.8	26.6	25.2	22.2	22.8	25.1	23.7	26.4
		③ きまった仕事はないが、ほとんど毎日する	28.8	28.9	29.9	23.6	23.6	27.1	29.3	27.7	28.4	26.5	17.7	23.4	22.1	20.6	23.2
		④ 言われて時々する	34.0	34.9	34.4	33.3	28.9	39.2	34.8	35.3	36.1	38.3	40.7	36.0	41.3	42.9	38.9
6	朝食は食べますか。	① 毎日 食べる	85.1	89.7	89.4	88.7	85.1	85.5	87.8	88.1	86.3	87.1	83.2	87.3	83.6	80.8	81.3
		② 食べる日が多い	10.8	7.0	7.5	9.0	11.4	9.6	9.2	8.4	10.1	7.9	9.5	7.9	11.3	13.6	10.9
		③ 食べない日が多い	3.7	2.4	2.2	2.1	3.3	3.8	2.1	3.3	2.6	3.9	4.7	4.1	3.6	4.5	5.6
		④ 食べない	0.6	0.8	0.8	0.2	0.2	1.0	0.9	0.2	1.0	1.1	2.6	0.8	1.5	1.1	2.2
7	夕食は何時ころ食べることが多いですか。	① 午後6時まで	15.4	14.3	15.9	15.9	17.7	6.4	9.2	10.5	15.9	10.4	5.4	4.6	5.4	5.8	9.3
		② 午後6時～7時	53.9	54.6	55.4	55.0	58.4	54.8	53.0	55.9	54.8	54.9	53.4	51.5	56.7	53.2	53.1
		③ 午後7時～8時	26.3	26.1	26.7	25.6	19.5	32.1	32.1	28.7	26.6	29.3	34.3	37.8	31.8	35.4	32.5
		④ 午後8時～9時	3.9	3.6	1.8	2.4	4.2	5.6	4.3	3.9	2.0	5.4	6.6	5.8	5.4	5.3	4.3
		⑤ 午後9時以降	0.8	1.4	0.2	1.2	0.2	1.0	1.3	1.0	0.8	0.0	0.2	0.3	0.8	0.3	0.8
8	家では、晴れた日は外で遊んでいますか。	① よく遊ぶ	51.2	50.5	53.5	53.7	45.7	46.8	46.6	40.7	43.5	48.5	18.4	18.5	17.9	18.9	25.3
		② 土・日曜しか遊ばない	27.0	28.3	30.4	28.4	30.2	25.7	23.1	29.6	30.2	25.4	34.6	34.0	43.6	37.9	33.6
		③ ほとんど遊ばない	22.0	21.2	16.1	18.0	24.1	27.5	30.3	29.6	26.4	26.1	46.8	47.5	38.5	43.2	41.1
9	学校の休み時間（大休けい・昼休み等）は、どのように過ごしていますか。	① 体を動かして遊ぶことが多い	75.1	68.3	65.0	65.5	64.8	58.6	60.1	54.8	53.0	46.7	13.9	14.0	9.0	10.9	12.3
		② 本を読んだり、友だちと話したりしていることが多い	22.4	27.3	32.0	28.8	29.7	36.3	36.5	40.0	41.3	43.8	76.8	80.2	83.1	80.8	77.0
		③ 特に何もしていない	2.7	4.4	3.1	5.7	5.5	5.0	3.4	5.3	5.8	9.5	9.5	5.8	7.9	8.4	10.7
10	学校内、登下校中、家の中であいさつをするようになりましたか。	① はい	78.6	77.0	76.7	73.5	75.7	79.1	82.5	76.4	77.6	78.5	72.1	73.1	72.1	79.4	81.3
		② いいえ	2.9	3.6	2.2	3.5	3.1	2.4	3.2	3.1	2.2	2.7	2.8	3.0	2.6	1.1	1.6
		③ 変わらない	18.7	19.4	21.0	22.9	21.2	18.5	14.3	20.5	20.2	18.8	25.1	23.9	25.4	19.5	17.1

【2024年度調査の傾向（2022年度及び過去調査との比較）】

- 1 テレビ・ゲームの時間
テレビやゲームについて、2時間以上見たりしたりする割合は、小5が52.1%、中2が67.2%であり、半数以上となっている。中2の2時間以上、3時間以上の割合は増加し続けており、過去最高の割合となっている。
- 2 睡眠時間
睡眠時間を8時間以上とる割合は、中2が26.9%で前回比より増加し、小5が75.9%で前回比とほぼ同程度である。小3では7時間未満の割合が微増し続けており今回12.9%と過去最高の割合となっている。
- 3 家庭学習の時間
家庭学習の時間が少ない子どもの割合が増加している。小学生の30分以下は小3が72.6%、小5が54.4%、中2の30分以下は45.9%であり、いずれも前回より割合が高くなっている。小3、中2に至っては10ポイント以上増加している。
- 4 家庭での読書の時間
読書をほとんどしない子どもの割合が高くなっており、小3が36.6%、小5が41.7%で過去最高となった。中2は58.9%であり、6ポイント減少したものの半数以上が読書をほとんどしていない。
- 5 お手伝い
「お手伝いをしない」と答えた小学生が若干増えている。「言われて時々する」と答えた子どもの割合が高い。
- 6 朝食
朝食を「毎日食べている」「食べる日が多い」と答えた子どもが9割以上であり前回比とほぼ同程度である。
- 7 夕食
夕食については、約8割の子どもが6時から8時の間に食べており、前回比とほぼ同程度である。
- 8 外遊び
学年が上がるにつれて外遊びの機会は減少傾向にある。
- 9 休み時間
休み時間に「特に何もしていない」子どもが若干増え、小5で9.5%、中2で10.7%といずれも過去最高の割合となっている。
- 10 あいさつ
ほとんどの児童生徒があいさつをしており、「あいさつをしない」と答えた児童生徒は学年が上がるにつれて減少している。

2 携帯電話・スマートフォン等についての調査

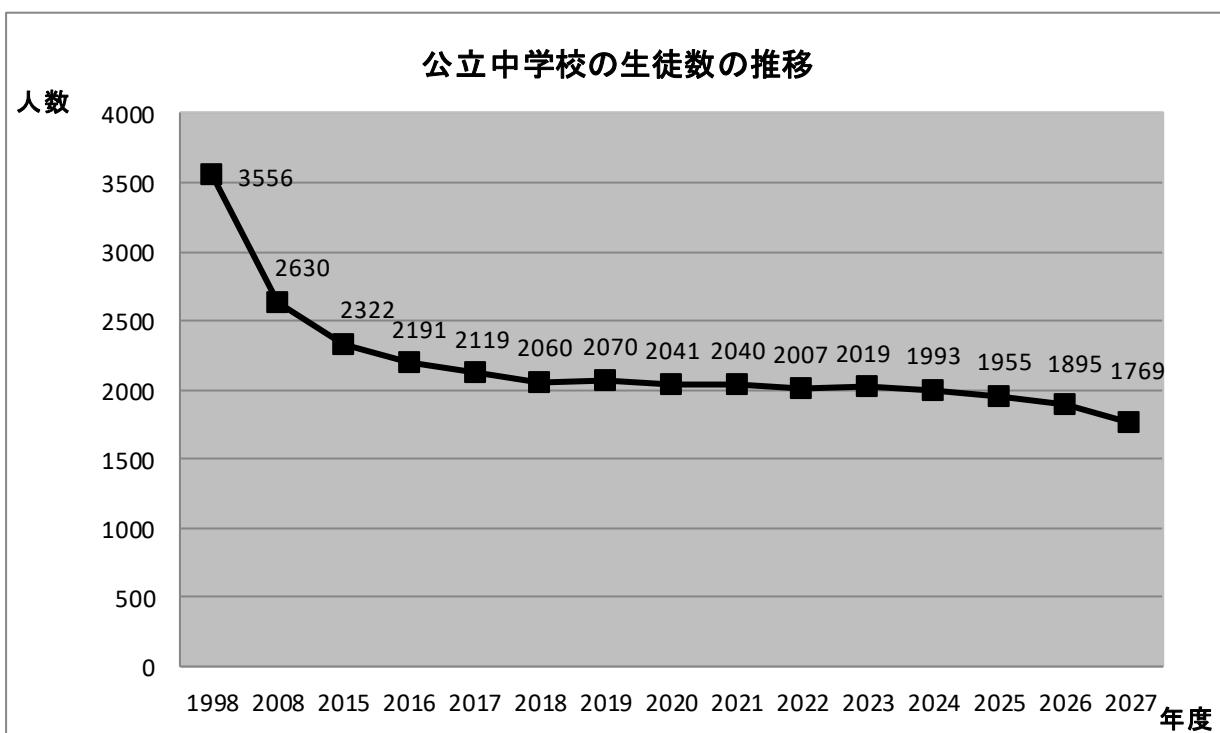
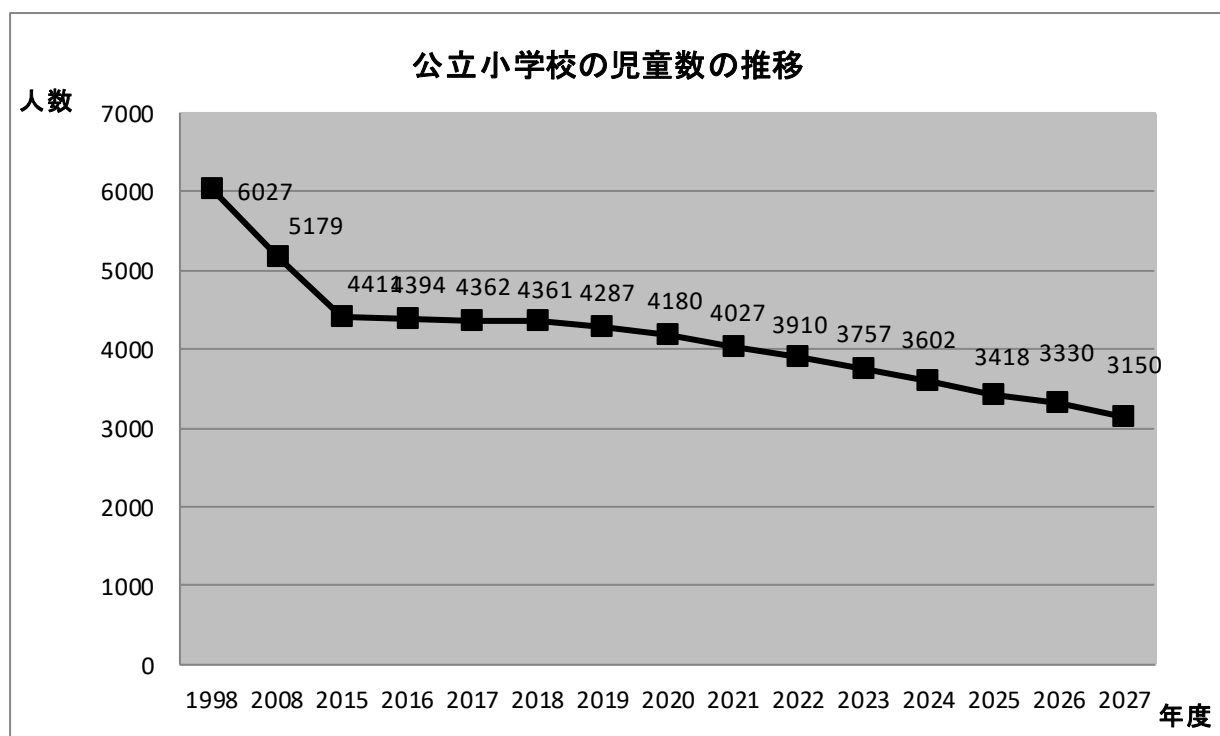
	年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	全小	中1	中2	中3	全中
自分の携帯電話・スマートフォンを持っている	2024	24.4%	30.3%	35.8%	42.3%	45.5%	52.8%	39.2%	77.8%	81.2%	87.5%	82.2%
	2022	18.0%	23.6%	28.7%	37.1%	41.7%	45.2%	33.0%	67.3%	69.1%	78.7%	71.6%
	2020	14.3%	22.4%	22.7%	28.8%	39.7%	35.9%	27.7%	52.1%	58.8%	68.7%	52.3%
	2018	14.9%	14.1%	29.1%	27.8%	35.6%	38.0%	26.7%	50.6%	53.8%	52.3%	52.3%
	2016	13.0%	16.3%	22.3%	28.5%	31.1%	32.5%	24.2%	39.9%	36.1%	41.8%	39.3%
自宅でインターネットを利用している	2024	66.8%	81.4%	82.4%	90.9%	94.3%	97.8%	86.3%	97.8%	99.2%	99.6%	98.9%
	2022	57.0%	78.0%	79.7%	91.1%	95.0%	96.2%	83.5%	97.0%	98.2%	98.8%	98.0%
	2020	57.0%	76.4%	77.5%	89.8%	91.4%	94.4%	81.6%	97.6%	94.6%	98.1%	93.8%
	2018	45.2%	51.1%	66.5%	79.5%	84.7%	90.0%	69.7%	92.6%	94.9%	93.9%	93.8%
	2016	39.5%	47.9%	49.1%	70.7%	77.7%	86.4%	62.3%	88.0%	91.1%	92.6%	90.7%

（↓インターネット利用のうちの割合）

パソコン・タブレットで	2024	46.1%	53.1%	47.9%	49.2%	51.5%	47.8%	49.4%	43.1%	45.2%	47.2%	45.2%
	2022	60.0%	59.2%	52.7%	52.8%	52.8%	55.5%	55.0%	49.9%	49.3%	58.3%	52.4%
	2020	57.9%	54.3%	53.5%	58.4%	59.6%	60.2%	57.5%	60.1%	59.7%	57.3%	61.8%
	2018	57.5%	50.8%	58.4%	49.6%	61.1%	70.1%	58.9%	62.6%	63.8%	58.9%	61.8%
	2016	60.9%	43.0%	53.2%	60.0%	64.8%	69.9%	60.4%	66.8%	62.1%	60.1%	62.8%
スマートフォンで	2024	43.3%	46.0%	43.3%	48.2%	49.9%	61.6%	49.8%	78.9%	82.6%	87.3%	83.0%
	2022	45.1%	44.8%	38.8%	42.2%	49.3%	53.2%	46.1%	70.9%	74.8%	83.8%	76.4%
スマートフォンを除く携帯電話、PHSで	2024	9.0%	5.6%	10.1%	13.6%	9.6%	8.5%	9.5%	8.6%	6.9%	6.2%	7.2%
	2022	19.1%	10.6%	9.3%	15.0%	10.8%	6.1%	11.2%	6.3%	4.3%	4.7%	5.1%
携帯電話・スマートフォンで	2020	54.8%	45.7%	47.4%	48.5%	55.3%	53.0%	50.8%	62.4%	67.6%	76.4%	58.6%
	2018	51.1%	43.7%	41.6%	50.8%	50.3%	49.9%	48.2%	57.9%	56.7%	61.2%	58.6%
	2016	49.5%	43.3%	33.1%	38.5%	43.5%	48.8%	43.0%	52.0%	40.3%	44.2%	45.3%
ゲーム機・音楽プレーヤーで（DS・iPodなど）	2024	70.2%	75.4%	69.5%	75.8%	75.0%	74.2%	73.6%	71.2%	70.7%	64.9%	69.0%
	2022	55.8%	68.0%	76.9%	78.6%	79.3%	81.2%	75.1%	74.3%	74.8%	73.6%	74.2%
	2020	45.5%	59.3%	64.8%	66.3%	73.7%	72.6%	65.5%	65.9%	61.0%	58.1%	54.9%
	2018	47.9%	46.7%	65.1%	68.6%	66.2%	67.4%	62.5%	59.2%	56.7%	48.9%	54.9%
	2016	41.2%	57.6%	59.7%	60.9%	65.9%	59.1%	58.8%	61.6%	62.7%	52.1%	58.7%

- 携帯電話、スマートフォンについては全体的に所持率が増え、中学生においては80%以上が保有している。
- 自宅でインターネットを利用している割合は全小学生、全中学生ともに過去最も高くなった。特に小1では約10ポイント増加した。
- スマートフォンでのインターネット利用が増加しており、全小学生、全中学生ともに過去最も高くなった。各学年においても前回から5ポイント以上増加した学年が多い。
- パソコンやタブレットでのインターネット利用は、全小学生、全中学生ともに過去最も低くなり、各学年においては小2、小5を除き50%を下回った。
- ゲーム機や音楽プレーヤー等でのインターネット利用は、全体的に前回から若干減少したが、小1で14.4ポイント増加、小2で7.4ポイント増加と小学校低学年で大幅に増加している。

児童生徒数の推移



- ※ 2024年度以前は、学校基本調査(基準日:各年5月1日)の結果による。
- ※ 2025年度は、児童生徒数見込調査(2025年3月10日現在)の結果による。
- ※ 2026年度以降は、住民基本台帳(2024年4月1日現在)及び就学人数(2024年5月1日現在)をスライドさせて予測値を算出。ただし、中学校は私学等への就学を考慮し、予測値に2024年度の就学率を掛けて算出。



イラスト：豊岡市立日高東中学校 美術部

第 5 次とよおか教育プラン (豊岡市教育振興基本計画) 2025 年度実践計画

発行年月	2025 年 3 月
編集発行	豊岡市教育委員会 教育総務課
所在地	豊岡市中央町 2 番 4 号
電話番号	0796-23-1117
e-mail	kyouikusoumu@city.toyooka.lg.jp
URL	http://www.city.toyooka.lg.jp